

要旨

研究テーマ

「人工知能は、作業のノウハウ・テクニックをサポートし、業務を効率化できる」

1. はじめに

「人工知能（AI）」に期待を持って集まったOW01メンバーは、「人工知能（AI）」を研究することにより、ナレッジマネジメントの失敗を改善する新しいエッセンスとして役立てることができるのではないかと考えた。

2. 「人工知能（AI）」についてのイメージ

OW01メンバーがもっている「人工知能（AI）」の率直なイメージについて表面（出）化させてみた。以下に一例を紹介すると

- a) 映画やアニメーションからくるイメージ
- b) 囲碁やチェスといった話題になったイベントのイメージ
- c) 2045年問題のイメージ
- d) 「自ら学習して精度を上げてくれる」、「人がする事を代わりに行ってくれる」
- e) 人工知能の研究分野で定義されているカテゴリー

など、どちらかというときゃッチーなイメージのものや、曖昧で漠然としたイメージのものが多い内容であった。

3. 「人工知能（AI）」について知識のレベルアップ

我々OW01メンバーがまずはじめに理解しなければならないものが「人工知能（AI）」とはどういったものなのか！であることが、イメージの共同化で認識出来たことから、「人工知能（AI）」についての知識のレベルアップを目指した。

4. 「人工知能ツール」の試用

「人工知能（AI）」をより深く理解するために「人工知能ツール」を検証することとした。そこでOW01メンバーでいくつかのツールを吟味した結果、クラウドサービスで提供されている、無料のアカウントを取得することで利用が可能な「人工知能ツール」を試用してみることとした。以下が今回試用した「人工知能ツール」である。

- a) Google社 Prediction API
- b) Microsoft社 Machine Learning
- c) IBM社 Watson

試用にて検証した結果、「人工知能ツール」についてそれなりの発見と結果を得ることができ、一定の評価が出来たと考えている。しかしながら、試用で利用できるレベルでは研究の検証としては物足りなさも感じた。

要旨

5. 「人工知能ツール」にはできない、応用可能な API を使用した検証

研究の検証としては「人工知能ツール」では物足りない部分があり、オープンソースの TensorFlow を利用し仮説検証を行っていく事とした。これに伴い、プログラミング言語 python も同時に習得していく事となる。

しかし、TensorFlow については、概念などの習得と応用が困難であった。また TensorFlow では、画像処理についてよく利用されており、自然言語の解析・応用はまだ利用数が少ないことが分かった。そこで自然言語の解析でよく利用されている word2vec を python の環境で検証に使用することとした。

6. ナレッジマネジメントの基礎理論と失敗

運用ナレッジを有効活用することについて、基礎理論である S E C I モデルを利用して解説していく。また S E C I モデルで発生しがちな失敗事例を交え解説する。

7. 課題及び課題の実現性

「人工知能 (A I)」を利用することにより、S E C I モデルの失敗を防止する事ができないかを、課題として掲げ実現性を、試用したツールや A P I を元に机上検証を行った

- 1) ナレッジの検索時有用な情報の提案
- 2) ナレッジ入力情報の補完
- 3) インシデント及び対応結果を自動登録
- 4) 前提知識を含めた対応方法の提供
- 5) 役立つ情報の共有化

8. ネクストステージ

課題の実現性として結論づけたものが、本当にそれ以上のパフォーマンスを出力することはないのかを想像する

9. 結論とまとめ

人工知能 (A I) が普及することは間違いないと考える。この為、変化する業務が発生するということも否定はしない。

ただ、人類と人工知能 (A I) は相棒となり共生していく関係を築くと信じている

※© 2015 Google Inc. All rights reserved. Google および Google ロゴは Google Inc. の登録商標です。
※© 2015 Google Inc. All rights reserved. Google Prediction API™ サービスは Google Inc. の商標です。
※Microsoft, Encarta, MSN, and Windows are either registered trademarks or trademarks of Microsoft Corporation in the United States and/or other countries.
※© Copyright IBM Corporation 1994, 2016.
※TensorFlow, the TensorFlow logo and any related marks are trademarks of Google Inc.
※文章内の記載の会社名および製品名は、各社の登録商標および商標です。